

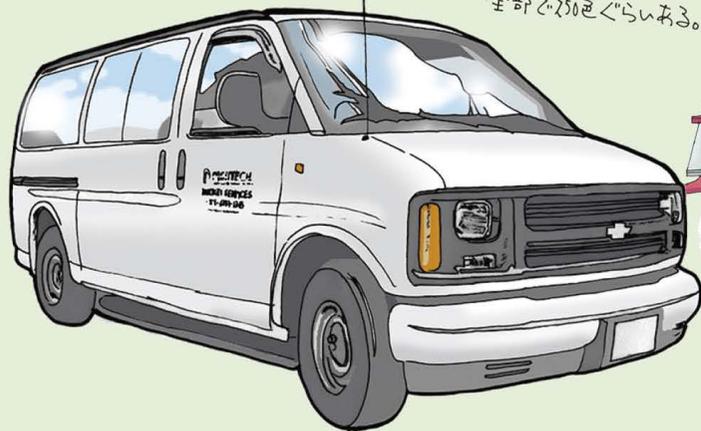
# ピグテック・ジャパン

## あべのハルカスから見える目立つ看板を作りました!

堺市に住んでいるんですが、生野は便利で、協力をお願いしたい塗装業、金物製造の会社がすぐ近くにあるので、この場所を選びました。ピグは僕のニックネームで、そこから社名を考えました。社員は僕ともうひとり、2人で看板製作のほとんどの作業を行っています。

天王寺のある企業から、あべのハルカスの展望台から社名が見えるよう看板を作ってほしいと依頼がありました。聞くと、取引先の方を観光であべのハルカスに連れて行く時に、「あれが、うちの会社です」と見えるようにしたいとか。社屋は全部で5棟。5つ看板をつけ、真ん中にロゴを目立つよう光らせました。

そんな無茶とも思えるような依頼にも、断ることなく必ず形にしてみました。逆に、無理難題と思える依頼のほうが、俄然、やる気になるんですよ。お客様のPRIにつながる独創的な看板を、これからも形にしていきたいです。



使用する塗料は、ドイツ製のものを使用。  
全部で25色ぐらいある。



## 美容室や飲食店のPRにつながる 工夫された目立つ看板を制作

1992年に創業したピグテック・ジャパン。看板デザインと聞くと、店舗や会社の入り口に表示されている小さな看板を思い浮かべるが、同社は小さなものはもちろん、横幅 10m もの大きなものも手掛ける。

同社が手掛けた代表例を挙げると、淀川区の桐灰化学の本社屋上にある 10m×6m の 4 面看板。ビルからせりだすような看板で、どうやって足場を組むかから悩んだ。専門の足場チームのメンバーを招集し、2 カ月かけて足場を完成させ、組み上げた。また、八尾市にあるサクラクレパスの工場では、看板ではないものの工場の巨大な壁面に絵を描いた。殺風景なイメージのする工場の雰囲気を、明るくポップな雰囲気に仕上げた。

代表の大石直人さんは、自動車のタイヤの販売をしていたが、お客様に看板業の方がいてお手伝いしたこと、絵をかいたり創作したりすることが好きだったことから、この世界に入った。営業はしたことがないが、顧客の紹介や看板リニューアルなどリピートで仕事が途切れたことはないそう。依頼が多いのは、美容室や飲食店、アパレルショップ、雑貨店、民泊ホテルなど物販やサービス業が中心。つまり、看板がその店に入りたいと思わせるきっかけや他店との差別化につながり、店にとっては販促上で欠かせないもの。中でも、リピートがかかるというのは、同社の看板への評価が高いということだ。

看板を製作する時は、相手が求めるテイスト感をもとにデザインを考える。そして、とにかく目立つかどうか。店舗の高い場所に掲示すると、目の前では大きな看板も小さく見えるので、それを考えて目立つ文字や色使い、装飾、電飾などを工夫する。名古屋の美容室の看板では、平面だとツルっとして目立たず、奥行きのある立体看板で、上からスポットを当てるのではなく中にLEDライトを埋め込み、背面から文字を浮かび上がらすように工夫した。

他の人ではできないような発想、何より色使いやデザイン力など芸術的なスキルの高さも加わり、縮小傾向にある看板業にあって同社は特別な存在のようだ。

### ピグテック・ジャパン

http://www.pigutech.com  
〒544-0011 大阪市生野区田島6-4-8  
TEL 06-6751-1345 FAX 06-6751-1347  
事業内容/店舗、企業の看板デザイン

オリジナルの  
Tシャツを作ったりもしています。

いろいろな  
ものづくりをしながら  
広告の可能性を  
探していきたい。

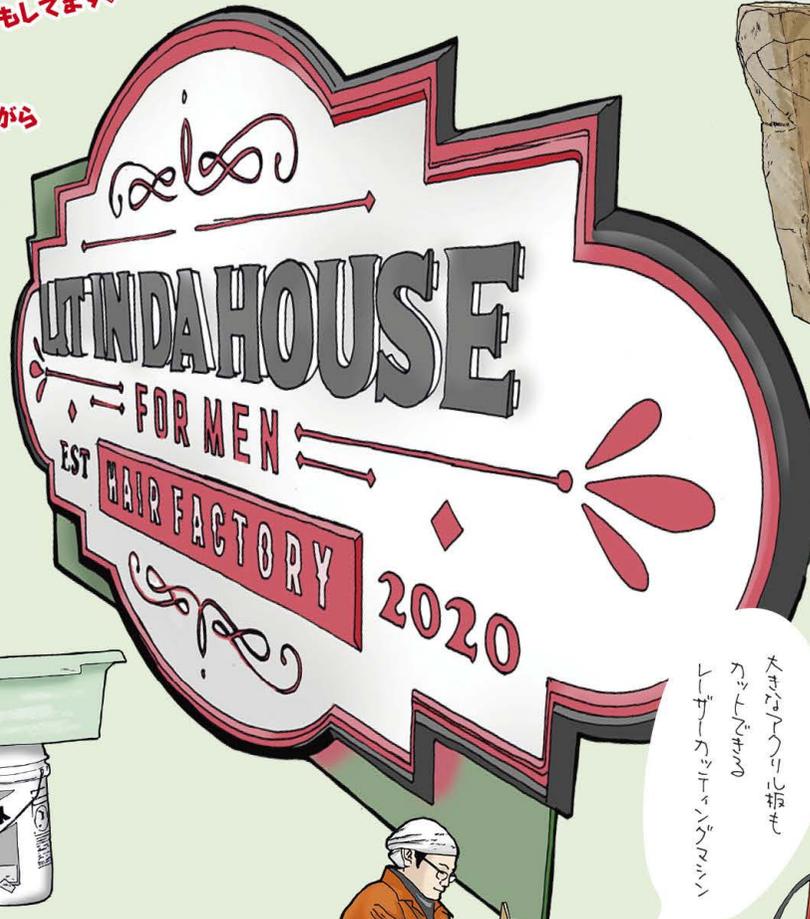


より立体的に  
目立たせるために  
文字の裏側にLEDを仕込んだ。



## 我が社の 自慢 自身で改造した車が アワードを受賞

米軍で使われていたピックアップトラックやボロボロのキャンピングカーを、趣味で改造。年末に横浜で開催されるカーショーで、2年連続、アワードを受賞。海外でも紹介され、一躍、その世界で有名に！



一本木から削り出したフラミンゴの習作。  
最後は塗装してオブジェに仕上げた。  
木工は習ったことではないが仕事にも役立つので  
時間があるときは手を動かす。  
モノを作るといふことが好きだから。

大きなアクリル板も  
カットできる  
レーザーカミッターを使って

